

# あかるく かしこく たくましく

令和5年9月22日 No. 26 文責：校長 佐野紳二

## SDGsについて考えてみましょう④ 「もったいない」をしてみよう

前回の学校通信（No. 25）までで、SDGsの17の目標について書かせていただきました。今日からは3回の予定で、SDGsの目標を達成するために私たちにどんなことができるか、また、その活動が17の目標のうちのどれに関わるのかを書かせていただきます。第1回目の今日は「節約」についてです。ちょっとした節約がたくさん集まると、地球を守る取組になっていきます。そんな例をいくつか紹介します。

今回の参考文献 わたしもできる！世界とつながるSDGsアクション ①「もったいない」をしてみよう  
著者：原琴乃 出版社：汐文社

### 水筒やエコバッグを持ち歩こう（12 つくる責任つかう責任 14 海の豊かさを守ろう）

「マイクロプラスチック」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。川や海に捨てられたペットボトルやレジ袋などのプラスチック製品が細かく砕かれたものが、魚の体内から大量に見つかり、生き物に影響を与えていると言われています。また、プラスチック製品がきちんと処分されずに海の中をただよったり、海岸に流れ着いたりするものを「海洋プラスチックごみ」と言いますが、2050年にはその量が海にいる魚の量を上回るとも言われています。みなさんが水筒やエコバッグを使い、ペットボトルやレジ袋・ストローなどの使用量を減らすことで、海の汚染を防ぐことができるそうです。



### 電気をこまめに消そう（7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を）



世界中の人々のうち、いまだに約7億6000万人の人が電気を使用できていないそうです。また、電気をつくるためには石油やガスがたくさん使われていて、これらを燃やすことによってできる二酸化炭素は、地球温暖化の原因にもなっています。みなさんが電気を節約しても、それがすぐに電気を使えない人を減らすことにはつながらないかも知れませんが、エネルギーの節約は地球環境を守ることに繋がっていきます。

### 自転車や歩きで移動しよう（3 すべての人に健康と福祉を 13 気候変動に具体的な対策を）

車や飛行機での移動は早くて快適で、遠くに行ったり買い物をしたりするときにはとても便利ですが、他の交通手段よりも二酸化炭素を多く出します。近くに行くときには自転車を利用したり、遠くに移動するときは電車を使ったりすると、二酸化炭素の排出量を減らすことができます。また、ガソリンをあまり使わない車（電気自動車やハイブリッド車）を選ぶことも考えていきたいですね。



### 3 Rに取り組もう (12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を)

3 Rとはリデュース (ごみを減らすこと, Reduce), リユース (使えるものは繰り返し使うこと, Reuse), リサイクル (ごみを資源として再利用すること, Recycle) の頭文字をとった言葉です。これまで、私たち人間は地球上の多くの天然資源を使って大量のものを生産し、使い終わったものをごみとして捨ててきました。こうして出されたごみが環境を汚染し、人間だけでなく多くの生き物の暮らしをおびやかしています。限りある資源を有効に使うことで、自然を大切にすることができます。



### 服を大切にしよう (4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任つかう責任)



昔に比べ、今は安い値段でたくさんの服がいろいろなお店で売られるようになりました。安さにつられてたくさんの服を買い、結局ほとんど着ないまま捨ててしまう…なんていう経験はないでしょうか。安い値段で売られる服は、安い値段でつくられています。それは、とても低い給料で働かされている人がいるということです。その中には本来なら学校に行くべき年齢の子どもたちも含まれているそうです。一人一人が服を大切にすることで、こうした子どもたちの数を減らすことができるかも知れません。

### 食べ物を大切にしよう (2 飢餓をゼロに 12 つくる責任つかう責任)

現在、日本の食料自給率は約38%だと言われています。残りの62%の食べ物は外国から輸入しています。(今、ロシアとウクライナの戦争のために、食べ物の値段が上がっているのもそのためです)ところが、そんな日本で、毎日ひとり当たりお茶碗一杯分の食べ物を捨てているそうです。(日本で1年間に廃棄する食品は、約612万トン)一方で、世界中の人々の10人に1人は栄養不足の状態にあり、それは今後も増えていくと予想されています。(特にアフリカでは21%の人が飢餓状態にあるそうです)一人一人が食べ物を大切にすることで、栄養不足の人たちに食べ物が届けられる世界になってほしいと願います。



### 「もったいない」と「MOTTAINAI」

環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさんは、2005年に初めて日本を訪れた際に「もったいない」という言葉に出会い、感銘を受けたそうです。

先ほど説明をした環境の3 R (リデュース・リユース・リサイクル) をたった一言で表せるだけでなく、かけがえのない地球資源に対するリスペクト (Respect・尊敬の念) が込められている言葉として、マータイさんはこの美しい日本語を、環境を守るための世界の共通語「MOTTAINAI」として広めることを提唱しました。

私たちも「もったいない」という言葉のふるさと・日本に住む者として、今日紹介したさまざまな「もったいない」に取り組んでみませんか？



MOTTAINAI

